

## 広島修道大学におけるプロジェクトマネジメント教育

脇谷直子 佐藤達男

広島修道大学 経済科学部

2017年12月28日

### 1. 広島修道大学とPM教育

広島修道大学は、地元経済界の要請を受けて1952年に短期大学として発足し、成長してきた私立の四年制大学です。2017年度の時点で6学部（商学部・人文学部・法学部・経済科学部・人間環境学部・健康科学部）から構成され、「地球的視野を持って、地域社会の発展に貢献できる人材の養成」を教育目標としています。

2013年には、文部科学省「COC地（知）の拠点整備事業」に採択され、教育・研究・社会貢献の3つの領域で取り組む「イノベーションブリッジによるひろしま未来協創プロジェクト」を実施してきました。3領域のうち「教育」領域の取り組みとして、2014年度から「地域イノベーションコース」を学部横断で開設しました。2017年度入学生をもって終了しますが、2018年度からは新たに国際コミュニティ学部を設置し、教育内容が引き継がれる予定です。

地域イノベーション人材の育成を目指す一環として、地域連携事業なども重視しています。近年では、学生が地域と連携して活動を行ったり、地域の課題を調査・研究したりするプロジェクト「地域つながるプロジェクト」を学内公募で毎年実施しています。

経済科学部は、情報科学などの現代的諸科学を大幅に導入し、実際の経済現象や経

済問題をはじめとする諸現象や諸問題について、体系的に教育研究を行う学部です。特に、経済情報学科では、経済学、システム科学、情報科学の3分野をバランスよく学びます。システム科学の科目群には「プロジェクトマネジメント論」を設置し、3年生以上の学生が主専攻科目として履修できるようになっています。

### 2. PM教育事例

#### (1) 広島市立大学との共同開講

遠隔システムで結んだ産学連携講義の2  
大学共同開講[1][2][3]

2011年度、独立行政法人情報処理推進機構産学連携推進センターの支援を受け（代表校：広島市立大学）、プロジェクトマネジメント科目の共同開講の準備を始めました。プロジェクトマネジメントを教育できる経験豊富な専門家が、首都圏に集中している中、質をある程度保証したままで、効率の良い講義運営の実現を目指しました。

2012年度から共同開講を開始し（2017年度現在も継続中）、遠隔システムを用いて2大学の学生がそれぞれのキャンパスで受講できるようにしています。実現にあたっては、PMI日本支部、株式会社三菱総合研究所による協力を得て、2012年度の開講時にカリキュラムの検討を行い、現在でも講師派遣などを行ってもらっています。

共同開講前は、広島市立大学ではキャリア科目が開講されておらず、キャリア科目「企業活動とプロジェクトマネジメント」として設置されました。他方、広島修道大学では主専攻科目として位置づけたまま、既存科目「プロジェクトマネジメント論」として開講してきました。

## (2) 地域イノベーションコース

大学1年生から受講できる複数の文科系学部の学生を対象としたPM入門[4]

2014年度から設置された地域イノベーションコースは、学部横断で登録できる仕組みとなっており、コースの2年目からは地域におけるPBL型授業が受講できるプログラムとなっていました。ここでのPBLはProblem-Based Learningの意味が強く、「・・・学生がチームでプロジェクトに取り組む手法のときはProject-Based Learning」と追加説明されています。

PBL型の授業を受講する前にPMの基本を少しでも学べる機会を用意するため、「ひろしま未来協創特講（プロジェクトマネジメント入門）」を開講することにしました。2014年度と2015年度に1単位科目（8回授業）として開講し、PMI日本支部のE-Learningパッケージ「始めの一步」を使用させていただきました。

この授業では、自習用としての利用ではなく、E-Learningパッケージと説明を組み合わせることでまず基本を理解し、後半はチームで演習を行うものでした。演習の最後にはチーム毎の発表機会を設け、成果物とプロジェクトに関する総評を行いました（写真1参照）。

なお、E-Learningパッケージは「次の一

歩」も準備されており、経済科学研究科博士前期課程の科目でも、一部試用させていただいています（2015年度以降）。



写真1 ひろしま未来協創特講（プロジェクトマネジメント入門）の授業の様子（2015年11月）

## (3) 地域つながるプロジェクト

実践を通じたプロジェクトマネジメントの考え方の定着を目指して

地域つながるプロジェクトは、正課外のプロジェクトでも参加できる「学生の自主的活動」を促すプロジェクト経験の機会です。経済科学部では、主専攻科目「ゼミナール」の学習・活動の一環として、複数のゼミが地域つながるプロジェクトを実施しています。

2016年度以降は、地域イノベーションコース登録の学生が、ゼミにおける地域つながるプロジェクトを経験するケースも出てきました。「プロジェクトマネジメント論」を履修しながらプロジェクトに参加している学生も多くいます。知識として学んだことを実践するためには少しハードルがありますが、それでも概念や考え方が活動の中で活かしていることもあります。

今後も、知識や演習で学ぶ科目とプロジェクト活動を共に経験し、PM教育へと繋げ

られるとよいと考えています。

### 3. グローバルプロジェクトマネジメント

#### (1) 2013～2016 年度

2012 年度から広島市立大学と共同開講をはじめた「プロジェクトマネジメント論」は、2013 年度から広島県の支援を受け（代表校：広島市立大学）、「グローバルプロジェクトマネジメント」を学ぶ科目へと刷新しました。具体的には、グローバルプロジェクトの視点から重点的に学ぶべき内容を入れ、外国人講師による英語での講義も一部取り入れました。

2013～2015 年度の 3 年間は、この支援により、社会人がサテライトキャンパスを利用して受講できる機会を設けることができました。また、受講後に海外インターンシップを経験することで、科目での学びと、グローバルプロジェクトの体験をセットで学ぶ学生を輩出することができました（広島修道大学からは 1 名／年度の参加だったため計 3 名）。

グローバルプロジェクトマネジメントを学ぶこと、海外インターンシップを経験することが有効である一方で、広島県からの支援が終了した 2016 年度は、予算の面などから海外インターンシップは実施できませんでした。継続的に実施するには様々な面で課題があります。

#### (2) 2017 年度

2017 年度は、「プロジェクトマネジメント論」のこれまでのカリキュラムを見直しました。専任教員がプロジェクトマネジメントの基礎教育を担当し、主に首都圏から招く企業からの外部講師の方が実務経験に即したケーススタディを担当することによ

って、基礎学習から実学としてのケーススタディを 15 回の講義の中で一貫性を持って学習できるように改善しました。

さらに、2016 年度は実施できなかった海外インターンシップについても、新たに広島県から教育補助事業として支援を受け、インドのオートモーティブ・デザイン企業と連携した 10 日間の現地研修を実施することによって、プロジェクトマネジメントの基礎+ケーススタディ+海外実習というプロセスによるグローバルプロジェクトマネジメントプログラムとしての体系化を実現しました（広島市立大学との共同事業、代表校：広島修道大学）。



写真 2 2017 年度海外インターンシップの様子（2017 年 9 月）

さらに 2017 年度からの新カリキュラムでは、前期科目「プロジェクトマネジメント論」の続編にあたる「プロジェクトマネジメント論Ⅱ」を後期に新設し、通年科目へと発展させています。「プロジェクトマネジメント論Ⅱ」では、これまでの受託型プロジェクトのマネジメントセオリーに加えて、アジャイル・プロジェクトマネジメントやプログラムマネジメントを取り入れた価値創造型のプロジェクトマネジメントを

テーマにしています。

#### 4. 課題と今後の展望

2017年度の海外インターンシップは準備期間が短かったこともあり、参加学生数は4名（広島修道大学3名，広島市立大学1名）と少なかったのですが，2018年度は10名を目標に計画的に進めていきたいと考えています。

今後は，グローバルプロジェクト，アジャイル，プログラムマネジメントなどの領域を複合的にも網羅し，全国レベルでもファーストケースとなるレベルのプロジェクトマネジメント教育プログラムとして体系化していきたいと考えています。

参考サイト・参考文献：

[1] 飯尾淳，脇谷直子，内橋勤，大場充，  
“複数の大学と企業を遠隔システムで結んだ産学連携講義”，情報処理学会 コンピュータと教育研究会 情報教育シンポジウム，  
Summer Symposium in Shizuoka 2012 (SSS2012)，IPSJ Symposium Series 2012(4)  
pp. 61-68, 2012/8

[2] 脇谷直子，飯尾淳，内橋勤，大場充，  
“複数の大学と企業の連携によるプロジェクトマネジメント教育”，プロジェクトマネジメント学会 2013年度春季研究発表大会  
(予稿集 p. 261-266)，2013/3

[3] 飯尾淳，脇谷直子，内橋勤，大場充，  
“複数の大学と企業を遠隔システムで結んだ産学連携によるプロジェクトマネジメント講義の評価”，情報処理学会 コンピュータと教育研究会 情報教育シンポジウム，  
Summer Symposium in Shizukuishi 2013 (SSS2013)，IPSJ Symposium Series 2013(2)  
pp. 117-124, 2013/8

[4] Kazuya Nomura, Tsutomu Uchihashi, Katsuhiko Kakehi, Naoko Wakiya, ” Key Point in Designing a Package of e-Learning Materials for PBL Course on PM Basics”, Proceedings of the 9th International Conference on Project Management, pp. 204-210, 2015/10